石神井南中学校
学校だより

平成３０年度　第　３　号
発行日　６月１８日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長　　田　邊　克　宣

運動会を終えて

田　邊　克　宣

関東地方も梅雨入りし、天気予報が気になる季節となりました。

先日の第５６回運動会には、多くのご来賓、保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。実行委員の頑張りを、周りの生徒たちがよくフォローし、全校生徒が主体的に、積極的に、真剣に、一生懸命に取り組む姿は、ご覧いただいたとおりです。各学年種目では、学級ごとの団結が実に清々しく、生徒たちは集団における協調性の大切さを学んだことと思います。中でも３年生が『 大むかで 』で見せてくれた、勝敗に関わらず最後まで走りきるという姿勢は、石南中に受け継がれるべきよき伝統として後輩たちがしっかりと受け継いでくれるでしょう。

今回、石南中の運動会を初めて見て印象に残ったのが、スポーツマンシップです。

開会式では、『 転んでもくじけず前へ！』というスローガンについて、生徒たちにこんな問いかけをしました。「 自分が転んだら、起き上がって再び走りだそう。仲間だったらどうする？ それが他のクラスの人だったら？ 」。実際に、ある種目でそれは起こりました。２人の走者が同時に転倒してしまったのです。本部席からは見えなかったのですが、その時、転がったバトンをすかさず相手選手に手渡していたという話を後で聞き、これこそフェアプレイ精神、スポーツマンシップの体現であると、深い感動を覚えた次第です。普段から正々堂々、一点の曇りもない正直さをよしとする心構えがその心に根差しているからこそ、いざという時に、ごく普通の行動となって現れたのでしょう。豊かな心が大きく花開いた一瞬を見せてくれた出来事です。この行事を通して培った心、そして、より強まったであろう学級・学年の絆を、生徒たちがこの後の学校生活に十分に生かしてくれることを大きく期待しています。

さて、先週おこなわれた定期考査では、ここでもまた、一生懸命に、正々堂々と試験問題に取り組む様子が各学級で窺えました。３年生は、先日の進路説明会から、いよいよ自らの進路に正面から向き合う時期に入りました。一人一人が、自分のこととして、他者との比較でなく、自分のやりたいこと、自分に合ったことを探していってくれることを心から願っています。同時に、友達も同じように悩み、考え、自分の一歩を踏み出そうとしていることに思いを馳せ、互いに励まし合いながら、共に石南中の仲間として進路を切り開いていってくれることと信じています。

３年生に限らず、石南中生には、しなやかで折れない、優しく強い心を育んでほしいと強く思います。それには、実際に会話をすることです。人類は、面と向かって会話をすることで、高い社会性を身に付けてきました。生身の個体としては小さく、弱い種であるヒトが、仲間とのコミュニケーションを密に取ることで共同体を形作り、進化を遂げてきたのです。まさに会話は“ 生きる力 ”です。

会話によって伝えるのは、思いや、考えです。この自分の思いや考えほど、難しいものはありません。自分自身でさえ、よく分からないことがあるものを、ましてや他者に伝えるとあっては、至難の業です。面と向かった会話では、言葉だけに頼るのでなく、表情や、声の大小や、声音や、身振りや、間といった、言葉以外の要素も駆使することで、自分の思いや考えを相手に伝えていきます。これがＳＮＳ上のいわゆる『 打ち言葉 』となると、限定的な語句・文字による短文のみでのやりとりとなってしまうことは否めません。それで本当のコミュニケーションはできるのでしょうか。はなはだ疑問に感じます。

同じ趣味や友人同士の集まりを否定するつもりはありません。ただ、限られた狭い世界では、

思考や感情が過剰に肥大したり極端な方向性をもったりしてしまい、それが他者への攻撃や排斥につながるということが往々にしてあるようです。互いによりよい関係を構築する方法は、自分の意見を正々堂々と伝え、また、相手の気持ちを慮り、受け容れる寛容の精神をもつことだと考えます。そのために、子供も大人も、一度、ＳＮＳの利用について考えませんか。気心の知れた友達以外の、仲間としての他者に対する理解を深めるために、大切なことは面と向かって会話をするようにしましょう。そしてまずは、身近な石南中を、他者を認め合えるコミュニティーとしていきましょう。

運動会の様子

入場行進

１年生いかだ流し

３年生全員リレー

２年生ダッシュ綱引き

女子ダンス

組体操